



YMCA KOBE

YMCA NEWS

神戸青年

No. 609

2011.5・6

May.Jun

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7
THE YMCA神戸版 発行人/水野 雄二 編集人/坂本 庸秀
神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15
TEL. 078-241-7201 FAX. 078-241-7479
URL http://www.kobeymca.or.jp 印刷/わかばやし印刷



神戸YMCA
年間聖句

希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、
たゆまず祈りなさい。
(ローマの信徒への手紙12章12節)

東日本大震災 救援復興活動

2011年 定期総会 公示

本会会則第23条により、下記の通り
総会を開催します。

記

- 日時 : 2011年5月31日 (火)
18:30~
- 場所 : 神戸YMCAチャペル
- 議事 : 1. 2010年度事業報告の件
2. 2011年度方針及び事業計画の件
3. 会則改正の件

- 報告 表彰 : 1. ボランティア奨励賞
2. ユースボランティア紹介

尚、総会構成員以外の会員の方にも、YMCAの現状をご理解いただく機会として、ご列席いただければ幸いです。 以上

現在、神戸YMCAではスタッフによる東日本大震災の救援復興活動チームを編成し、被災地の支援を行っています。その一環として、4月2、3日に松田康之と山本亮司のスタッフ2名が仙台YMCAならびに盛岡YMCAを訪れ、被災地の様子を確認し、YMCAの働きを伺ってきました。今回は、仙台の七ヶ浜地区と岩手の宮古地区を訪ねました。仙台YMCAは、いち早くボランティアセンターを立ち上げ、地元のボランティアをコーディネートしながら避難所でのニーズ調査や支援物資の配送、子どもたちのレクリエーション活動を展開しています。また盛岡YMCAは、日本キリスト教団宮古教会と協働し、全国YMCAからの支援スタッフを受け入

東日本大震災で被災された多くの方々に、心からのお見舞いを申し上げます。16年前、阪神・淡路大震災に遭遇し、同じく悲しい体験をしたものとして、被災に遭われた方々の悲痛な思いは、いかにかりかと推察いたします。神戸YMCAは、全国のYMCAと協働して、それらの方々のお気持ちに寄り添える活動を進めてまいります。

神戸YMCA 会長 武田 寿子
総主事 水野 雄二



「ふれあい喫茶」ボランティアバス先遣隊 4/11 於：宮城県亘理郡山元町坂元支所

れ、避難所でのニーズ調査に加え、高齢者が多い地域で家の片付けなどの活動を展開しています。被災地の様子はテレビで報道される状況がそのまま目の前に広がり、言葉を失う光景でした。ただ、少し高いところにある家は流されること無く、震災前のたたずまいのままでした。その意味では被災地での被害の格差が大きいことを感じましたが、実際にお話を聞いていくと、高台に住んでいる方々も家族や友人を亡くさっているケースが多く、深い悲しみの中にいらつしやることを伺いました。今回の震災では地震による被害はかなり少なく、ほとんどが津波による被害でした。被災範囲が複数県にまたがるほどの規模の大きさや、家屋そのものが元の地点に無く、すべてのインフラが根元から破壊されていることなど阪神・淡路大震災とは多くの点で



募金の中から、支援金をお渡ししました。(上：仙台YMCA、下：盛岡YMCA)

異なっています。また昼間の時間帯であったことで、家族が死別しているケースも多く、今後のケアが必要になってくると思われ、高年齢者のケアも必要になると感じました。阪神・淡路大震災後、神戸でも多くの支援団体が生まれ、今回の支援に関しても早々に動き出しています。そのような中で、神戸YMCAは他の強みを持つ団体と連携し、ともに力を合わせていきたいと存じます。神戸YMCAでは、とりわけ子どもへのケアに特化して支援活動を展開していくことを考えています。直近で言えば避難所でのレクリエーション活動、学校が始まった後のレクリエーション訪問など。また、中期的には、知的障がい児や発達障がい児への理解を深めるための養成講習なども必要だと考えられます。また、阪神・淡路大震災以降、数回にわたって被災した子どもたちを対象にしたリフレッシュキャンプを実施していきたいと思えます。皆様から多くの募金や、励ましのお声をいただいています。YMCAは皆さんの代表として、現地の人々に即時的、かつ長期的に関わっていきます。3年後、5年後を見据え、活動を展開してまいります。今後ともより一層のご支援とご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

◆神戸YMCAの支援活動の様子
は、神戸YMCAのホームページにて随時情報を更新してまいります。ぜひご覧ください。

マイエポックスストーリー ③

YMCAがあったからこそ:

花畑 慎一

(神戸YMCA高等学院第1期生
2005年卒業)

「俺は何をやっても無理...。高校生の時、『学校』というものが苦痛で仕方なかった。そんなとき『神戸YMCA高等学院』入学案内を目にし、『これが最後のチャンス』と考え、第1期生として入学することになった。

高等学院はちょっと変な学校。金髪OK、以前在籍していた学校の制服着用OK...何より変わっていたのは、先生方が、良き父、母、そして友だちのような存在であった。そんな『変わった』学校を『楽しい』と実感していた。また、友人との関わりのおかげで「馬鹿になる」ことがここまで楽しいのかと思ひ、過去の自分がアホらしく思えた。「馬鹿になる」とは、「自分らしく」という意味である。

この学校では、さまざまな経験を重ねた。その中で、私は将来の『夢』を見つけた。そのきっかけとなったのが『保育体験』。軽い気持ちで参加し、体験実習を経験した。先生に伝えた言葉：「保育の世界に進みたい!」。純粋な子どもたちと関わり、子どもの成長を共に喜びたい。そんな思いが芽生えた瞬間であり、「保育」という世界で本気でやりたい、そう決心した。

しかし、保育士になるための学校への入学試験に何度も失敗し、友人に弱音を吐いた際に返ってきた言葉が「花ちゃんにとって、保育はその程度やったん?」。この言葉のおかげで、後ろ向きになっていた自分を前に向かせ、志望していた保育専門学校に合格することができた。先生や友人からの「おめでとう」は、宝物であった。

専門学校を卒業、大学へ編入・卒業したのち、保育園の保育士として働いている。今の上司(園長)は、先述した体験実習を紹介してくださった先生である。苦しんでいるときに手を差し伸べてくれた仲間、先生方...みんなに会えたからこそ、今「自分らしく」生きようとすることができ、夢であった「先生」になることができた。

YMCAとの出会いに改めて言いたい。「ありがとう!!」と。

「神戸YMCA125周年」について

「将来と希望を与えるものでありたい。」

山口 徹

関西学院大学に入学してまもなくの1962年春、社会学部の掲示板の片隅に小さなB5サイズの「神戸YMCAリーダー募集！」という張り紙が私の目に飛び込んだ。校舎内で実施された説明会に出席し、その後、少年部、キャンプのリーダーとして参画させていただいたのがYMCAとの出会いであった。小学校5年生からふとしたことでキリスト教の日曜学校に出席し、高校2年生のクリスマスに導かれて受洗したこと、関西学院スクールモットー「Mastery for Service」奉仕への練達、の意味を中学部の時から教えられることを通して、神の恵みを沢山いただいて、愛されていることを知る者は、神と共に仕え、神のみを見上げ、命じられたことを自分なりに果たすことが大切であることを身に感じ続けてきた。その実践を結果的にYMCA運動の中で実現できたことを大変感謝している。YMCAに奉職させていただいた1966年は、東京オリンピック後で、汚職や公害、都市環境の悪化など経済成長至上主義の歪みが明らかになってきた時代であった。時代は絶えず変化をする。しかし、いつの時代にも悩み、苦しむ青少年が必ずいる。ならば、YMCAはどのような器（プログラム）を用意し、彼らにどの様に手を差し伸べるのかを常に問いながら、「一人ひとりの青少年と如何に深く関わる事ができるか」を実践しなければならぬというYMCAの使命を今井鎮雄総主事から指導を徹底的に受けた。また、YMCAの主事たる者は教会から遣わされて、この世では証し人として奉仕の業に励まなければならぬ。すなわち、グループ活動、キャンプ、クラス等々のプログラムにおいては、あくまで神の愛によって示された「理想社会の創造」に努めることが究極的な思いと折りでなければならぬということである。バブル経済崩壊、続いてあの未曾有の阪神・淡路大震災を経験した総主事時代は大変辛かったというのが正直な気持ちだったが、神から与えられた試練は、何としても心からそれを受け止め、それに真っ向から向き合わなければならぬ。そんな状況の中で理事・委員・会員、そして職員が一体となれたという貴重な経験をさせていただき、抛って立つべき信仰が私に問われたことは感謝に耐えない。諸先輩方も状況は違うがその時々大変厳しい時代を篤い思いと祈りを持って乗り越えてきてくださり今日があるのだということをし心しなければならぬ。私を救ってくれた御言葉は、「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。」(エレミヤ書29:11)であった。この原稿を執筆する前に、阪神・淡路大震災救援活動報告書「その時から新しい生き方が始まった」を再読し、涙した自分を神はさらに強めてくださったようだ。

財団法人から公益財団法人へ

財団法人神戸YMCAは2011年4月1日から公益財団法人神戸YMCAとなりました。

2006年に公益法人制度改革が始まり、神戸YMCAは新法対応委員会での検討を経て認定申請作業を進めてきましたが、去る3月22日に公益財団法人としての認定書が交付されました。制度改革における重要な変更の一つに「寄

付控除」があります。神戸YMCAへの寄付金を、課税所得から控除できるようになります(後日、説明の文書を作成公表します)。一方で情報開示が強く求められるなど制約も増えますが、これまで公益法人として自負してきた事業の継続と拡充を一層進めてゆきたいと思えます。

幼稚園の〈春〉

「えーりん」「おかあさん」

今年も幼稚園に、進級・入園の4月がやってきました。大好きなお母さんと離れて、幼稚園という未知の世界に踏み出す子どもたちの不安は、保育者のやさしい笑顔やことばや抱っこでも、なかなか取り去ることは出来ません。けれども、そんな子どもたちの不安を軽くし、思わず遊びの世界に引き込んでしまおうほど魅力的なもの。それはおにいさん、おねえさんの姿です。

新年度を迎え、新しいクラス、先生、友だちに出会った進級児は、「大きくなったこと」がうれしくて、喜びにあふれて遊んでいます。そんなお兄さん、お姉さんの姿は、思わず泣くのも忘れて見入ってしまうほど、本当に楽しそうです。そして、「一緒に遊びたいん？」



と声をかけてくれたり、おもちゃを貸してくれたりするさりげない年中・年長児のやさしさは、不安な気持ち

でいっぱいの新入園児の心をやわらげてくれます。そんな自然なかわりか、いつのまにか泣いていたことも、お母さんのいない淋しさも忘れさせてくれ、新入園児も遊び始められるようになってきます。そして、楽しく遊んで満足したあとに、大好きなお母さんのもとへ帰っていく。そんな繰り返しの中で、いつの間にか子どもたちにとって、幼稚園が安心できる場となり、幼稚園生活を自分のものにしていくことが出来るのです。今でこそ、いきいきと喜びにあふれているお兄さん、お姉さんも、やはり入園した頃は不安いっぱい泣いていた記憶があり、またそこで、年長児からやさしくしてもらったうれしい記憶があるのです。だからこそ、新入園児の淋しく不安な気持ちがよくわかるのでしようし、してもらったのと同じようにやさしくすることが出来る。毎年繰り返し見られる幼稚園での素敵な光景です。

2009年に神戸学園都市に開園しました、西神戸YMCA保育園も、この3月で2年目の卒園児を送り出しました。1970年に認可を受けた神戸市長田区の西神戸YMCA保育園の歴史をYMCA保育園(神戸学園都市)そして西宮YMCA保育園(西宮市)とともに受け継ぎ、子どもに、地域に仕え、仕えあう人々が、心響きあう地域社会を目指しています。今は4月、新しい園児が入園され、保育園はまた、小さな赤ちゃん達の泣き声が響き、子ども達にとって、保護者の皆さんや保育者にとつて「新しい出会いと新しい心響く世界」がスタートしております。かわい子ども達に、手作りのタペストリーの製作も活動も再開します。一度保育園のご見学もいらしてください。西神戸YMCA保育園(078)792-1011 市営地下鉄学園都市駅下車徒歩1分。

西神戸YMCA保育園



子どもたちは学校が終わると「ただいまーっ」と元気よくセンターに帰ってきます。友達と一緒に勉強したり、遊んだり、おやつを食べる姿は大きな家族のようです。1年生が宿題で困っていると2・3年生が教えてあげている姿も見られます。自由遊びの時間にはみんなドミノを積み立てて、天井にまで届くタワーを作り上げることもあります。1年生の女の子の背が足りなくなったら、3年生の男の子が脚立に乗って手伝っていました。頼れるお兄ちゃんに成長したその姿はとても微笑ましいものでした。時には涙を流すようなケンカもします。お互いの感情をぶつけ合っている真剣勝負は、自分を発見し、見つめ直す時間でもあります。毎日を生懸命に生きていく子どもたちには元氣と喜びをもらいながら、職員一同子どもたちと一緒に成長していきたいと願っています。

学童保育

子どもたちは学校が終わると「ただいまーっ」と元気よくセンターに帰ってきます。友達と一緒に勉強したり、遊んだり、おやつを食べる姿は大きな家族のようです。1年生が宿題で困っていると2・3年生が教えてあげている姿も見られます。自由遊びの時間にはみんなドミノを積み立てて、天井にまで届くタワーを作り上げることもあります。1年生の女の子の背が足りなくなったら、3年生の男の子が脚立に乗って手伝っていました。頼れるお兄ちゃんに成長したその姿はとても微笑ましいものでした。時には涙を流すようなケンカもします。お互いの感情をぶつけ合っている真剣勝負は、自分を発見し、見つめ直す時間でもあります。毎日を生懸命に生きていく子どもたちには元氣と喜びをもらいながら、職員一同子どもたちと一緒に成長していきたいと願っています。

感謝

- 神戸YMCA創立125周年協賛金
神戸YMCA少年部
リーダーOBOG
会、西村政憲、株式会社ホテルオークラ
神戸、株式会社関西コーヒー、池田美子、神戸YMCA混声合唱団くさぶえ、武田建、武田寿子、阪田晃一、石井真理子、菱三印刷株式会社、さんだワイズメンズクラブ、井上雅司、神戸フェリーバス株式会社、丹羽和子、塩田邦博、村田建設株式会社、神戸ポトワイズメンズクラブ、株式会社サンケイビルメンテ、関西フローレンス株式会社、嘉納 洋、岩田健司、桜井聰子、嘉納忠夫、足立康幸、西宮ワイズメンズクラブ、株式会社毛利マーク、八幡良三、上甲真砂恵、株式会社 ジャパンリリーフ、林健夫、福原吉孝、小泉啓子、福助石鹸株式会社、江口 満、江口かおり、木下都紀子、蔭山陽子、長井慎吾、神戸朝禱会、尾崎陽子、山本修身、小野昌二、八木 誠、大田厚三郎
【寄付金】
岡山御津キリスト教会代表 大森ソナエ、谷水清司
(敬称略、順不同)

～ 2010年度国際協力募金感謝～ かけがえのない いのちと平和

2010年度神戸YMCA国際協力募金が2月末をもって終了いたしました。約430万円の浄財が寄せられました。ご協力くださいました皆さまに、心よりお礼申し上げます。この募金は神戸YMCAが行なう国際協力、地域奉仕活動に、そして日本YMCA同盟を通して災害支援、難民支援等に用いらさせていただきます。

YMCA国際協力募金は — 世界の国と地域に広がるYMCAのネットワークを通じて、すべての人びとが国、民族、宗教の違いを認め合い、平和にいきいきと暮らすことが出来る世界をつくり出すための国際協力、地域奉仕活動に用いられています。

人びととともに — 16年前、私たちの地域は困難な環境にありながらも、世界中の様々な人びとにより強く支えられる経験をいたしました。このたびの東日本大震災では、私たちが支えられたように、被災に遭われた方々に寄り添える活動を進めてまいります。互いに支えられ支えるという関係を築き、互いが強められるよう、国際協力募金が用いられています。

ともに学びあう — 私たち一人ひとりが互いに関心を持ち、誰もがともに支えあえる関係であるように、YMCAでは、豊かな出会いを通して、人と人とが交流し学びあうことができるよう、日々の活動に取り組んでいます。

地域とともに — 神戸YMCAは、「ひとりひとりを大切に」という願いのもと、それぞれが与えられた地域で平和をつくり出すことができる人が育つように、多くの出会いと学びの機会を提供しています。

多くの会員の皆さま、地域の他の関係者の皆さまとともに街頭募金活動や啓発活動にも努めてきました。皆さまのご協力とご理解に重ねて感謝申し上げます。

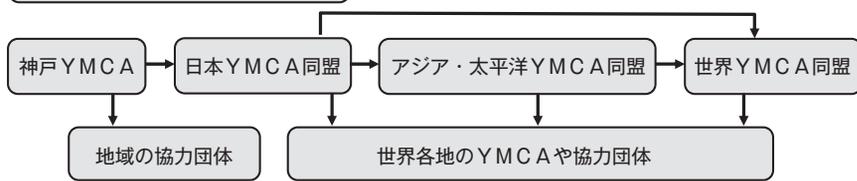


街頭募金活動



2011年3月タイワークキャンプ

神戸YMCA国際協力募金の流れ



出向者からの便り [姫路YMCA 達 直樹さん]

2009年度に神戸からの出向で、現在、姫路YMCAで勤務している、達 直樹です。初年度から、高等学院の担任、また、去年は姫路YMCAが長く継続している「カンボジアスタディツアー」の引率と、新しいことにチャレンジする機会を与えて頂いている。

33歳にして、初海外がこのカンボジアスタディツアー。過去のデータを見たり、前年度ツアーに参加された方々に現地の様子を伺ったり、アドバイスを頂いていたが、最後は皆さんから「達さんはすぐ馴染むと思うよ」と……。(うすうす分かっていたが、現地の人とあまり変わらない外見・風格ということだろう。案の定その通りだった。)

予備知識とカンボジアのイメージを持って参加したが、初日はやはり驚きの連続だった。空港からホテルまでの道路は対面で3車線。所狭しと車・原付が縦横10cm間隔で並走し、2人乗りどころか4人乗り。一応信号はあるが、感覚とタイミングで走っている感じである。そんな驚きの翌日から、このツアーの目的である歯磨き指導が始まった。ツアー中、3校の小学校を訪問したが、カンボジアの情勢では、歯磨きを習慣化するのは難しく、殆どの子どもの歯が痛そうでたまらない状態であった。

小学校のある田舎の地域までホテルからチャーターバスで移動。途中に、車窓から見える村の風景は、まさに戦後の日本の風景に似ている、と感じた。バスが進むに連れ、そんな風景に変化が見られ、しかも何か違和感を覚えた。カンボジアは、様々な国やいろいろな人たちからの支援がなされているが、民家が立ち並ぶのどかな町の雰囲気、1、2軒先に進むと、急に一変するような発展の仕方が目立つ。少しするとデコボコした道の先に高速道路らしき道路が見えてくる。どうみてもアンバランスな風景。確かに日本に比べるとカンボジアは貧しいと感じる。でも、その中で、みんな“ちゃんと”生きている。カンボジアのユースは、「将来は〇〇になりたい」「だからその為に勉強する」と明確な目標を持っている。お金や物の支援は、確かにその瞬間は、豊かになるだろう。でも、本当の意味で貧しさから抜け出せるのだろうか。「豊かになる」とか「発展していく」ということの意味を考えさせられる。

カンボジアYMCAのユースや職員から、孤児に対しての学習支援を中心に行っていて、他の支援も検討中だと聞いた。長年行ってきた歯磨き支援は、カンボジアYMCAのユースにしっかりと引き継がれていて、かれらと一緒に子どもたちの指導が出来た。私たちが出来る支援として、やったことの大きさや凄さではないと思う。「支援=豊かになる=自立」ではないだろうか。出来れば私たちが訪問した時だけでなく、生活習慣の中に取り入れられる様、カンボジアの人たちが自分たちで出来る様にして行くことが本当の意味での支援なのではないかと思う。



ソナタ 奏鳴曲 No.47



総理事 水野雄二

木を植えた人

3月11日に起こった悪夢のような出来事から、私たちは怒涛のような津波に飲み込まれる街の映像を何度見たことでしょうか。そして数日後には、跡形もなく姿を消した町並みや瓦礫に覆われた街の映像をどれだけ見続けたことでしょうか。あまりにも無残で悲惨な光景でした。16年前に神戸で大きな震災を体験した者として、被災された方々の衝撃と悲哀、心痛を感じずにおれません。神様はいったい何てことをなさるのか、と声をあげたくなるような心境です。

絶望の際にあって、しかし必死に希望を捨てずに避難所で働いている被災者の姿も同じくテレビに映し出されています。頑張してほしい、応援してます、と声をかけたい気持ちですが、そんな時、ふと、ある物語が思い出されました。ジャン・ジオノが書いた「木を植える人」という古い本で、たった一人で「希望」の実を植え続け、荒れ地から森を蘇らせた農夫の話でした。ある旅人がアルプスの荒れ地で水を求めて彷徨っているとき、ある羊飼いに会います。羊飼いは毎日、ドングリの実を選びすぐって丁寧に荒れ地に植えていくのです。いくつ植えても育つのはわずか。しかし、この羊飼いは毎日コツコツと植え続けるのです。旅人は数年後、またこの荒れ地を訪ねるのですが、羊飼いはまだひたすら木を植え続けていました。やがて、育った檜の木は人の背を越え、小川を作り、森や畑、そして人が住み、街を生み出すこととなります。荒れ地が「希望」の森に変わっていくというお話です。津波によって荒れ地に変えられた故郷で、多くの人が生きようと頑張っておられます。アルプスの羊飼いが一粒一粒丁寧にドングリの実を植えたような長い努力が、これから積み重ねられていくのでしょうか。神戸の街もそのような汗と涙があって再建されました。いや、まだその途上にあるのかも知れません。ジオノはこの物語の中で、育った檜の木を見た旅人にこう言わせています。

「ここには希望がもどっているのだ。」

ウエルネスセンター三宮	☎078 (241) 7202
YMCAホームヘルパーの事務所	☎078 (241) 7237
ランゲージセンター	☎078 (241) 7204
専門学校	☎078 (241) 7203
西宮YMCA	☎0798 (35) 5987
三田YMCA	☎079 (559) 0075
余島野外活動センター	☎0879 (62) 2241
国際・奉仕センター	☎078 (241) 7204



ウエルネスセンター学園都市	☎078 (793) 7401
西神戸YMCA	☎078 (793) 7402
西神南YMCA	☎078 (993) 1560
須磨YMCA	☎078 (734) 0183
YMCA保育園	☎078 (794) 3901
西宮YMCA保育園	☎0798 (35) 5992
西神戸YMCA保育園	☎078 (792) 1011
YMCAちとせ幼稚園	☎078 (732) 3542
西神戸YMCA幼稚園	☎078 (997) 7705

第28回 タイワークキャンプ報告



3月11日から24日の2週間、10名のリーダーと今年で28回目となるタイワークキャンプに行ってきました。現地タイ、シアトル、ラオス、日本から若者が集まり、チェンマイより車で2時間ほどのロンパッカという村の学校で、LD（学習障害）の子どもたちための教室を建ててきました。入口にはそれぞれの国の言葉で「International school for Friendship（みんなともだち）」と彫られた教室の名前の板が飾られています。その他にも学校の子どもたちへの文化紹介、語学教室を行い、村でのホームステイを体験してきました。各国からキャンパーが集い、共に生活し、働き、汗を流す中で、文化の違いや衝突、言葉の壁の前に立たされ、必死に何かを汲み取り、自ら乗り越えようとする姿が彼らにはありました。互いを理解し、関係を築くのに2週間という時間はあまりにも短かったようです。「キャンプに参加した私達は今なにができるのだろう。」一時も無駄にせずキャンプを過ごした彼らから生まれた問いです。キャンプで出会った全てのものは、これから自分達がどう生きていくかでその価値が決まってきます。まずはこのキャンプの語り部となること。そのほかにも一つ、彼らはこれからの人生で挑戦したいこと、変えたいこと、目標などを自分自身に宣言しました。世界中でつながる仲間が、出会いが一人一人の歩みをそれまでとは違うものにしていきます。その瞬間に立ち会えたことは、私にとっても大きな恵みでした。奇しくも私たちが出発した日に東日本大震災が起り、バンコクで飛行機乗り換え際見たニュースで私達も状況を知りました。キャンプ中もチェンマイYMCAの皆さんをはじめ、多くの方々が被災者のために募金活動を行って下さっていました。このキャンプを支えてくださった方々、また今もお私達の国を応援して下さる全ての人々に感謝申し上げます。ありがとうございました。 第28回タイワークキャンプ引率 神戸YMCA職員 中野卓磨



夏休みはYMCAのプログラムへ!!

草木の緑やさわやかな風が新しい季節を感じる日々ですが、みなさんは、新しい学校、学年にもう慣れましたか？ 神戸YMCAでは、今年の夏休みもいろいろなキャンプや、講習会でみなさんをお待ちしています。カヌーや釣り、海水浴で海を満喫するキャンプもあれば、住んでいるところより少し涼しい山で虫とりや、探検をするキャンプもありますよ！ サマースクールのような宿泊のないプログラム、アクアティックや、ジムナスティックスのようなしっかり体を動かすプログラムなど、興味に合わせてご参加いただけます。受付開始は、インターネットでは、5月23日（月）10：00～、お電話では、5月25日（水）10：00～です。みなさまにお会いできることを楽しみにしています！

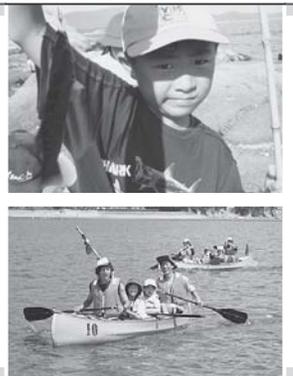
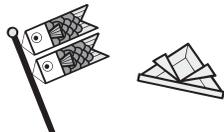


Photo Topics



沖縄シュノーケリングキャンプ

2011年3月27日(日)～30日(水)で沖縄シュノーケリングキャンプを実施しました。海の中では、タイマイ（海がめ）・ウツボ・カクレクマノミ・海へびなどと出会うことができました。「大きい水族館に入っているみたい！」と子どもたちは大興奮!! ザトウクジラの親子も見たり、『自分で釣った魚を食べる!』という体験も出来ました。美しい海を堪能しました。



余島春キャンプ

春の暖かな陽射しの下、歌声と笑い声があふれるキャンプになりました！ 大きな声で唄い、思いっきり笑うことのできる彼らがこの世の希望であり、光であると感じることができた春の余島キャンプでした。



八チ北スキーキャンプ

今年の春スキーは急遽八チ北になりましたが、79名の子どもたちが参加してくれました。天気が良い中、思いっきりスキーを楽しみました。



高等学院入学式



専門学校入学式

★★ 個人消息 ★★

【ご誕生】

11/15 小澤夏子さん（西宮YMCA保育園）ご長男 奏人（かなと）くん
4/8 大津 創さん（西神戸ランチ）ご長男 陽（ひなた）くん

【ご逝去】

3/22 大深 友規乃さん（YMCA保育園）ご祖父様